



立梅用水型小水力発電プロジェクト —これからの農業用水の利用と地域活性— 水土里ネット立梅用水



産官学民プロジェクト会議

昨今、自然エネルギーの存在が見直され、その価値について様々な議論が行われています。小水力発電についても例外ではなく、これまで利用されてこなかった水力(未利用包蔵水力)を利用しようとする試みが全国各地で始まっています。私たち水土里ネット立梅用水でも小水力発電の可能性は探ってきましたが、従来の装置では取水施設、送水施設、発電施設といった土木建築施設を必要とするため、経済性が低く、小水力発電の実現には至りませんでした。

一方で、農村地域では高齢化社会の進行、非農家が増えることで混住化が顕在化することで農村コミュニティの崩壊が懸念されています。また、低迷する経済のあおりを受け地域が疲弊しています。このような状況の中、農村地域が本来持っている地域(農村)協働力に今一度着目し、地域活性を図ることが急務と考えます。

この小水力発電では、地域(農村)協働力という力を利用して地域活性を図ることを目的に「立梅用水型小水力発電プロジェクト(Power of the TACHIBAI ~次の200年へ~)」は発進しました。しかしこのプロジェクトは水土里ネット立梅用水だけで運営、実現していくことは困難であり、現在、多くの方々と協力して実施しています。

本プロジェクトでは2012年7月から施行された固定買取制度による売電をせず、地産地消として地域内で完全消費することとしています。その理由として、私たちは小水力発電のうちマイクロレベルの発電量(数kw/h)の場合、売電するよりも地産地消として利用の方が地域に果たす効果は大きいと考えたからです。この地産地消型の電力利用により地域活性を実現するためには地域住民の主体的な参画が重要となります。そのため、本プロジェクトではこれまでの産官学の枠を超えた「産官学民」の体制(図1)をとっています。民チームは農地・水・環境保全活動の母体である「多気町勢和地域資源保全・活用協議会」に参加する多様な主体や地域コミュニティとなっています。

現在、立梅用水型小水力発電プロジェクトでは産・学チームが開発した土木建築施設を必要としない世界初の落差式小水力発電装置(相反転方式)を利用して小水力発電の調査を行っています。

思わぬことに冬水発電調査では、従来の定説であった非かんがい期における水量の低下による発電量の低下を覆す結果も得られています。



発電機据付作業



オープニングセレモニー

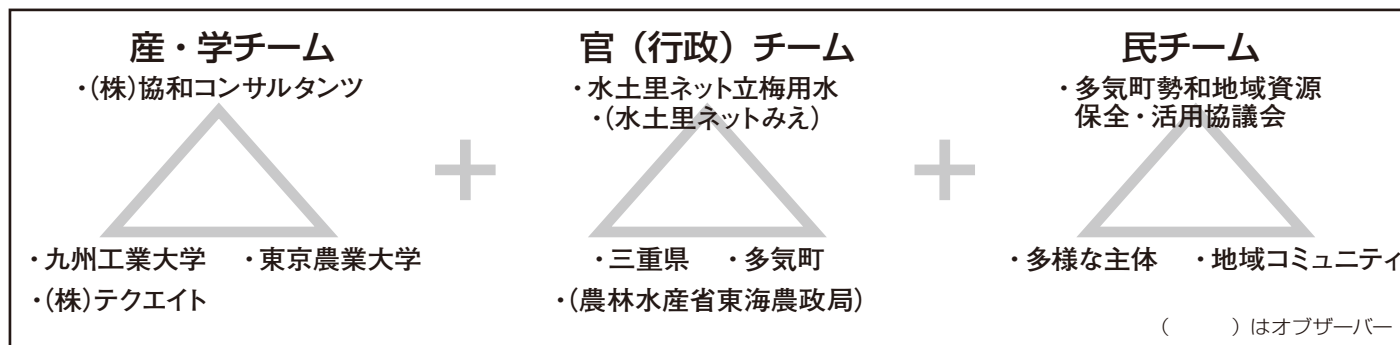


発電機の展示

この調査に際しては世界初の発電装置を設置すること、地域活性を担う取組であることから、7月28日にオープニングセレモニーを開催しました。オープニングセレモニーでは多気町長をはじめ、多くの来賓に出席を頂くとともに、地域の子ども達も参加しました。そして子ども達からは、この発電機のニックネームを募集し、287件もの応募の中か

ら立梅用水創設功労者「西村彦左衛門」の彦の字を取って「彦電…HIKODEN」と名付けられました。今後は、小水力発電を利用してどのような地域活性を図るか地域住民とともに検討し、その内容を具現化していきます。また、地域活性のための小水力発電が地域に根付くための仕組みづくり、情報発信も行っていきます。

(図1) 立梅用水型小水力発電プロジェクトチームの概要



出江土地改良区の設立総会 開催



総会の様子

去る9月22日(土)、多気町農村婦人の家において出江土地改良区の設立総会が執り行われ、関係者50人余りが出席した。

設立総会は、開会の辞より始められ、米田理事長の挨拶を皮切りに、来賓として出席された久保多気町長、森本衆議院議員、西場県議会議員、濱井県議会議員、西村多気町議会

議員議長、中西松阪農林商工環境事務所農業基盤室長、辻多気郡農業協同組合代表理事組合長から祝辞をいただき、引き続き出席された来賓の紹介、祝電が披露された。

その後、議長に板谷仁吉氏を選出し議事に入った。議事は、17議案あり、上程された議案は全て満場一致で承認され設立総会は幕を閉じた。

みんなの広場

イベント紹介

①つ・環境フェア(水土里ネット雲出井)

開催日/平成24年11月18日(日)
 場所/津市 津競艇場

②みえのつどい2012

開催日/平成25年1月14日(月・祝)
 場所/三重県総合文化センター 中ホール他

③局農地・水シンポジウム

開催日/平成24年11月17日(土)
 場所/東建ホール
 名古屋市中区三の丸二丁目1-33
 東建本社丸の内ビル3F・4F